

2018(平成30)年11月
習志野市男女共同参画社会づくり情報紙
第43号

きら *Kira Kira* きら

特集 起業して輝くキラリさん♪2018



「一歩踏み出す勇気ですよ」5年前に起業した三島万里子さんはこう言って目を輝かせます。津田沼の自宅でタイ料理教室と雑貨販売をしています。12年前、夫の転勤でタイに行ったことが起業を決意する後押しになりました。

会社登記の手続きや開業コストなどで日本の起業環境はまだ世界で120位（世界銀行「Doing Business2014」）に低迷しています。女性の起業を手助けする環境について、商店街の空き店舗を活用して、起業を目指す人たちが安い賃料で集合できるスペースが欲しいと三島さんは提案します。「ゆくゆくは近くの商店街に再び賑わいを取り戻すのが夢なのです」

思い切って一歩を 〜タイでの暮らしを活かして〜

みしま まりこ
三島 万里子さん 49歳

自宅サロン主宰（タイ料理教室、雑貨販売）

夫、高校生の娘さん、中学生の息子さん、大型犬1匹と暮らしています。津田沼で「LEELAWADEE 7丁目」を経営。屋号の「リーラワディ」はタイで「ブルメリア」の花のことを指します。白くて甘い香りのする花で、三島さんの思い出の花だそうです。



■起業したきっかけを教えてください

夫の転勤でタイに家族で6年半住んだのですが、日本を出発する時に、「タイで暮らした経験を帰国後に活かしたい」と考えていました。日本で私は何ができるだろう？という目線でタイ料理やタイ式マッサージを習ったり、雑貨の工房をいくつも回ったりして過ごしていました。でも、帰国しても起業のきっかけはなかなかつかめず、そんな中、習志野商工会議所主催の「ならしの創業塾」の広告を見つけ、参加しました。そこではホームページの作り方や売り上げの考え方、開業届のことなど起業・創業の基礎を学んだり、起業している先輩の話を直接聞くことができました。そこで知り合った方たちとは、アドバイスをしあったり情報交換をしました。一人だと不安もあります

が、同じように頑張ろうとしている人たちの話を聞くことはとても参考になりました。その時の仲間は5年経った今でもつながっています。

その他にも気になるセミナーや勉強会にもたくさん参加しましたね。

■起業した後どのようにして軌道に乗せたのですか

まずはプレオープンをして、実際にタイ料理のご試食や雑貨を見ていただく機会を設けることにしました。手作りのチラシを200部ポスティングしたのですが、申込みは1件でした。それでも反応率は良い方なのですが、後で知りましたが、その時はとてもショックだったことを覚えています。そこでご近所の方やお友達をお誘いし、3日間のプレオープン体験していただきました。ありがたいことにその後

はクチコミで広がっていき、徐々にたくさんの方にお越しいただけるようになっていきました。現在は料理サイトやSNSでの情報発信、イベント出店などをきっかけに他県からもお越しいただいています。

「LEELAWADEE に行ってみよう！」「また行きたい！」と思っていただけるようにと心掛けています。

■ご家族の反応はいかがでしたか

夫も子どもたちもスタート時からずっと応援してくれています。自宅のリビングを使用するので子どもたちは片付けを手伝ってくれたり、疲れてしまっただけでレンジでチン！するご飯のときでも笑って受け入れてくれます。夫は私ができないことをサポートしてくれます。使いにくい場所に棚を作ってくれた

り、私ひとりでも動かせるようにとキャスター付きの作業テーブルを作ってくれたり。タイ料理の試作続きのときも「またか〜！」と言いながらも付き合ってくれる家族に、本当に感謝しています。

実は私は出産前から10年以上勤めていた会社があり、やりがいのある仕事を出産後も続けていきたいと思っていました。長女を出産した時に早めに職場復帰をし、0歳児の娘を朝一番から夕方最後まで保育所に預け、さらにはその後、夜まで人に預かっていただきながら仕事をしていました。当時、家事・育児・仕事の両立を私にはできると思っていたのです。本当に色々と尽くしましたがどうやっても環境が整わず、間もなく退職することになりました。そこからはずっと家事育児に専念しました。子どもの成長を見守り、楽しみ、かけがえのない時間を過ごしたから、仕事を辞めた後悔は全くありません。でも「またいつかは仕事をしたい」という気持ちはずっと持ち続けていました。そのタイミングの中、夫の転勤が決まったのです。

■起業されて5年経ちました。がやりくりはいかがですか

自宅を使うことで場所代がかからず、店舗を借りて起業している人に比べるとリスクはかな



生徒さんから人気のメニューは『ガイヤーン』（焼き鳥）『ソムタム』（青パイアのサラダ）『ヤムウンセン』（春雨サラダ）。食材も近所のスーパーやインターネットで買えます。辛いイメージがありますがそうでないものや子どもも食べられるくせのないものもたくさんあります。

り抑えられていると思います。反面、家族の予定もあるので自宅ではレッスンができない日もありますから、今はパートさんと同じくらいかな。なかなか大金持ちにはならないですね（笑）。

■悩んだり迷ったことはなかったのですか

大変なこともあります。あまりクヨクヨしない性格なのが丁度良いのかもしれませんが、自分ではどんなに頑張ったつもりでも、人に認めてもらえなければやっぱり落ちこむこともあります。そんな時は起業仲間と相談したり、ご飯を食べに行ったりして元気をもらっています。



■後に続く起業を目指す方へ何かアドバイスをお願いします

本当にやりたいことがあるなら、思い切ってやってみたらいいのに！と思います。最初の一步は不安かもしれませんが、えい！と踏み出したら見える景色がどんどん変わっていきました。あの時飛び込んでいなかったら「本当はやりたいことがあったのに」とずっと思っていたかもしれません。私は起業してよかった！としか思っていません。これからコツコツ私らしく進んでいきたいと思っています。

習志野市男女共同参画
推進団体インタビュー

男女共同参画社会の実現に向けて、市と共に協力して活動を行う市民団体である「習志野市男女共同参画推進団体」を紹介します。



事務局の秋山 敏子さん（左）と植松 礼子さん

特定非営利活動法人 **ウィメンズ・ウィングちば**

設立：2003年
会員数：12人
代表：宮田 喜美江さん

男女共同参画社会を進める活動をしている仲間たちで、暴力のない社会を実現したいと、2003年12月に設立しました。DV・児童虐待防止、男女共同参画の各種の講座等の開催や、電話相談、講師派遣、情報発信（ニュースレター発行）等の活動もしています。県や市の市民活動フェア等には積極的に参加して、身体的なことだけではなく、精神的なもの（無視するなど）も暴力なのだと言っています。

2010年から県の男女共同参画課が、これからの若い人向けに習志野市、鎌ヶ谷市、千葉市などDV防止活動をしている団体と連携して中学校、高等学校などで情報交換や講座なども実施しています。人権を尊重することの大切さを若い人が学んでいくことが大事なのだと思います。ぜひ習志野市の中学、高校でも講座が開かれることを望みます。この活動に関心のある方はお問い合わせ下さい。

【問い合わせ】TEL/FAX 043(224)7705

ひとりで悩んでいませんか？悩んでいる方は相談を！

女性の生き方相談

*無料 *要予約 *秘密厳守 *市内在住・在勤・在学者対象

- ◎DV（ドメスティック・バイオレンス）のこと
- ◎夫婦のこと ◎家族のこと ◎人間関係のこと
- ◎自分自身の生き方のこと など

<面接相談>女性の専門相談員があなたと一緒に考えます。

日時：第1金曜 午後1時30分～3時10分・4時～7時40分

第2・4火曜、第3木曜、第3金曜 **1回40分**

午前9時～11時40分・午後0時30分～4時10分

場所：サンロード津田沼6階 市民相談室

申込：習志野市男女共同参画センター（ステップならし）

047-453-9307 予約
受付 平日 午前8時30分～午後5時
土曜 午前9時～午後5時

編集委員の
おすすめ図書



ステップならしの図書コーナーでは、男女共同参画に関する図書の貸し出しや資料が閲覧できます。ひとり5冊、2週間まで借りることができます。どうぞご利用ください。

世代の痛み

団塊ジュニアから団塊への質問状



うえの ちづこ あまみや かりん
上野 千鶴子 両宮 処凛 著
中央公論新社 発行 2017年

高度経済成長とともに年を重ねた「団塊世代」。就職氷河期のため安定した雇用に恵まれなかった「団塊ジュニア」。二つの世代間の親子関係に今、想定外の未婚・長寿・介護などを巡る家族リスクがのしかかっています。本書は両世代を代表する論客の二人が語り合った記録であり、この時代を心豊かに生きるヒントが語られています。

そして上野千鶴子氏は、人間なので時には信じられない言動もあるが、心豊かに生きるには「信じられる人」の存在は重要であると述べています。

また、全ての時代が過渡期であり、全ての世代が志半ばでたおれてしまうであろう。前世代から現世代へ次世代へ流れを感じた時、責任が生まれる、と締めくくっています。

きらきら★
キーワード



このコーナーでは、男女共同参画に関する今話題のキーワードや数字などを紹介します。

28.8%

この数字は日本の起業家に占める女性の割合です。（中小企業庁『中小企業白書2017』より）

男性たちに混じって経済分野で活躍する女性たちはまだそう多くはありません。起業家に占める女性の割合は、昭和57年の38%をピークに下がり、平成24年には28.8%まで低下しました。背景には「事業、経営に関する専門知識・ノウハウの不足」や「起業への不安（収入の減少、失敗時のリスク等）」などがあるようです。

アンケート
実施中！



今後のより良い紙面づくりのため、記事内容等に関するアンケートを実施しています。アンケートの内容は統計的に処理され、特定の個人が識別できる情報として公表されることはありません。皆さんの率直なご意見、ご感想をお聞かせください。

【回答方法】
右記のQRコードから専用メールフォームにアクセスし、各質問項目を回答して「送信」を押してください。

